

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	エフビー介護サービス	代表者	柳澤 美穂	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人共通介護方針として、①個別ケア、②認知症ケア、③看取りケア、④地域ケアの4つのケアを大切にし、地域に密着した介護改革と社会貢献を目指す。</li> <li>・有料老人ホーム併設の特性を生かし、在宅で支えきれなくなった高齢者をなじみの関係性の中で継続してケアすることができる。</li> <li>・市街地から離れた田畑の中に立地し、静寂な環境の中で過ごすことができる。</li> <li>・高速インター近く、県外などからの車の移動に適している。</li> </ul>
事業所名	小規模多機能 あったかほーむエフビー 日高	管理者	北澤 綾美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	1人	1人	人	2人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>前々回の改善計画の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在通常化した小ミーティングの実行を継続。</li> <li>・ケアプラン内容を職員が把握、内容を周知しやすいよう日々の朝礼の場でケアプランの説明や内容の確認、モニタリングをスタッフ全体で行ってゆく。</li> </ul> <p>追加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を知らないというスタッフの回答が毎年多いため、ケアプラン確認ファイルの中に地域資源が一目でわかる図式や行政の取り組み一覧を一緒に綴り、次年度は地域資源が分からないという回答がないようにする。</li> </ul>	<p>特定技能性含む全員が参加できた。介護職員の資質向上のためにもこの評価作業による振り返りが必要。</p> <p>地域資源が分からないという職員が少なかった。</p>	<p>一年に一度この事業所評価を行うことで改めて日々のケアや仕事のあり方を見直すことができている。</p>	<p>就業年数や職位、国籍関係なく全職員が自分の意見を発信できる労働環境を整える。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々環境整備の徹底と感染対策兼ねたこまめな換気の継続。</li> <li>・経年劣化で至る所に不具合が生じているが、経費予算で応じられる修理から優先順位をつけて設備改善してゆく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物が竣工してから12年経過。居室の劣化も目立つようになり今年度は退去したお部屋から順次リフォームを行い、家賃費用に見合う環境整備に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今は玄関のインターホンを押せばだれかしら出てきてくれるが、前は（かなり以前）事務所も誰もおらず中に入ってしまったことがあった。当時は玄関扉が開けっ放しになっていて事務所も誰もおらず危険を感じた。インターホンがあったのかもわからなかった。</li> <li>・北澤赴任後に事務所不在時にインターホンを押すよう案内掲示をしている。</li> <li>・事業所側として地域の方が入りやすい工夫はこれと言ってしていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空室の洗面台配管から悪臭が上がってくるがあるので、空室に対しても気配りし配管に水を流して悪臭を予防する。</li> </ul>

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・去年達成できなかった地区文化祭への参加をリベンジする。</li> <li>・ボランティア受け入れや地域交流の場としての事業所の解放等、法人の判断に沿ってとなるが、可能なことは行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に職員が足りない状況があり、地域行事に参加する体制が取れなかった。それでも今年度は管理者とエリア長が地区清掃作業には参加でき少しでも地域に貢献できたと思っている。</li> <li>・事業所に訪れた認知症徘徊者の保護をしてご自宅に送っていったという事案もあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく八幡様に利用者さんを連れてきているのを見かける。</li> <li>・地区行事には参加できなかったが初詣や花見など町内の神社に出かけ、地域の方とお話をしたり交流を図っている。</li> </ul>	<p>コロナ前に行っていた地域の体操教室を次年度5月から再開し、地域とのつながりを再構築していく。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策を行った状態で密にならない室外外出レクをこまめに取り入れていく。</li> <li>・困難事例方などはその地域のあんしんセンターと協働してもらい、地域ケア会議など必要に応じて開催につなげ地域との情報共有を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大勢を連れて外に出かけるということは人員不足で行えないが、入居している利用者様を外部に連れ出し気分転換を図るためにも、サービス提供に買い物同行を設定して週に一度は外に出かけられる機会を作っている。</li> <li>・文化祭やどんど焼きといった行事参加は行えなかったが、初詣は毎年町内の八幡様にお参り行くことにしており、地域の行事の一環として捉えている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員不足で大々的な外出レクは難しくても、介護サービスの買い物同行支援等の位置づけを活用して、利用者様満足を高めていく。</li> <li>・職員一人に対して少人数介護量の少ない方の地域イベント参加をしていく。</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度より運営推進会議は事業所開催に変更し、3年途絶えていた地域との直接情報共有や地域へ出向く機会の確保に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年から書面ではなく集合開催再開となったことで、事業所からの現行報告だけでなく、地域の情報も得やすくなった。</li> <li>・地域での取り組みという点に関しては文化祭等地域が主導となって行っている場に参加できてこそ地域を盛り上げるお役に立てていたと思うので、今年はできていなかったと判断した。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の困りごとや困難事例など、運営推進会議を利用してケース検討していく。</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議を活用して委員の方も事業所の防災訓練に参加していただけるよう協力を仰ぐ。</li> <li>・災害時用非常食の備蓄をしていないので、水や乾パン等ストックをしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災関連についてはBCPを作成したという他は特に行えていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新保田中町で防災訓練を行っていない。行うようにとアナウンスはあるができていない。</li> <li>・中尾町ではたかまえ病院を使って今年防災訓練を行っている。新保町や井野町も行っている。</li> <li>・水害の際は新高尾小学校が避難場所になっているがそこまでたどり着けない場合もある。染谷川が水位高まるとこの辺の細い水路も水があふれてしまう。エフビー日高に避難させてもらうことも区長から法人へ提携依頼を行ってほしい。</li> <li>・コロナ前以前就任していた事業所では運営推進会議と防災訓練日を同一日にして、委員の方にも訓練に参加して</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新保田中町で防災訓練を行うようになったときは事業所として参加。</li> <li>・年に一度運営推進会議と避難訓練を同一日とし、地域参加として位置付けていく。</li> <li>・災害時の水や保存食のストックを行う。</li> </ul>